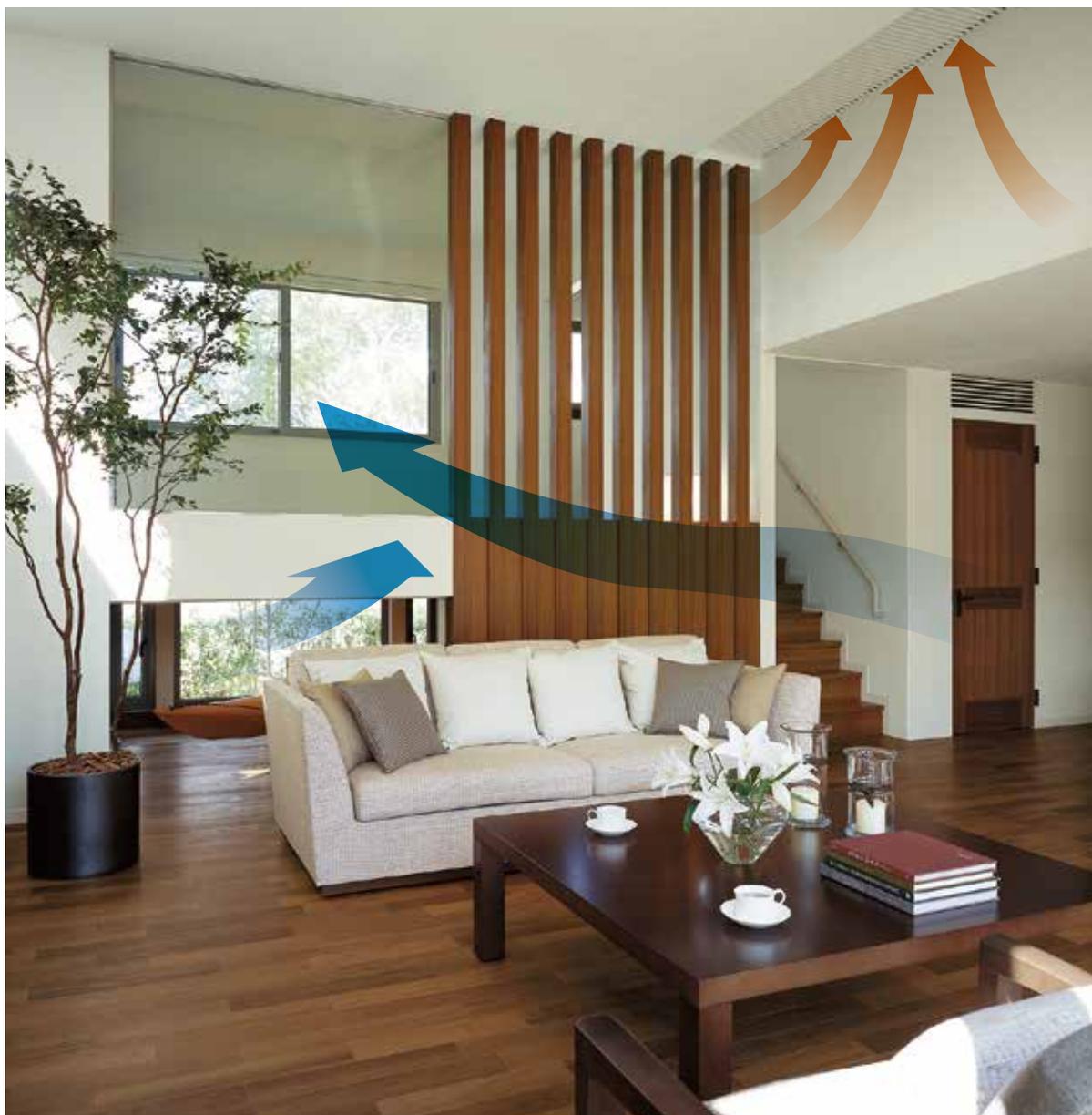


先人の知恵と先進の技術・デザインを融合し、 夏も冬も快適な住まいを実現する「微気候デザイン」

1000年の昔から伝わる知恵を、現代の住まいに生かし、夏も冬も心地よい「微気候デザイン」を採用しています。



1階「蔵」と吹き抜けは、良好な住環境をつくる微気候デザイン。
ミサワホームでは空気の流れも設計します。

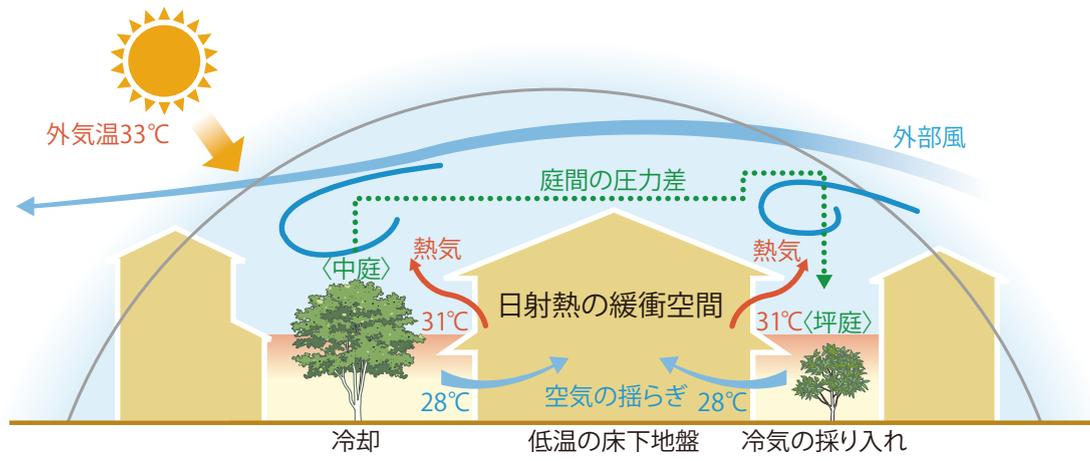


温度差換気で天井付近の換気口から熱気を排出。



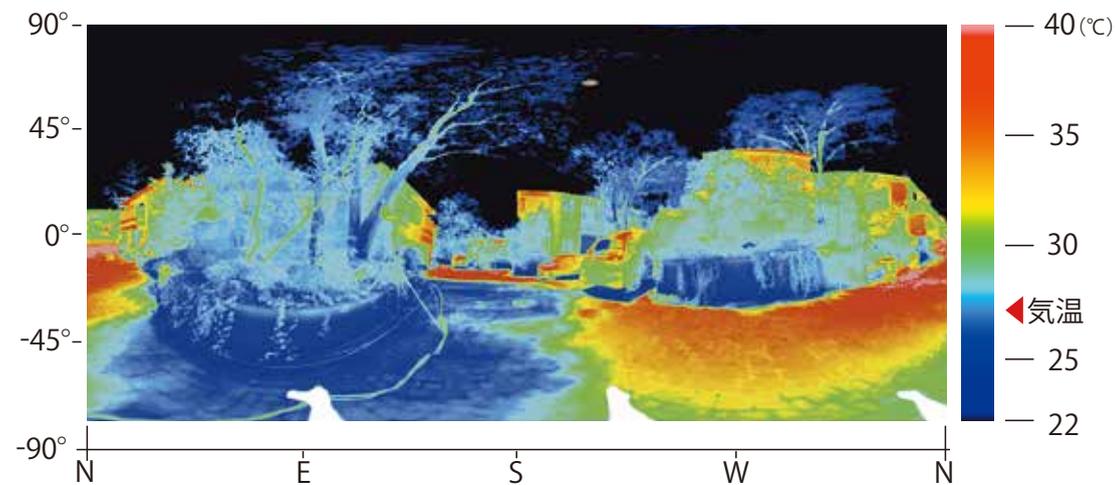
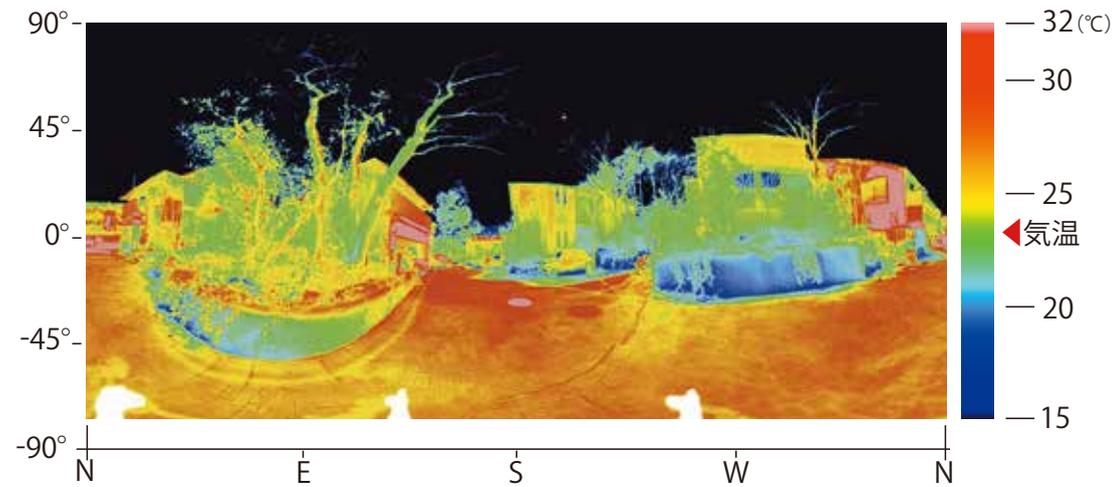
夏の直射を遮る深い軒や凹型プラン。

伝統的な町屋における住環境の工夫



内庭を利用して、風のない時でも室内に空気の揺らぎをつくりだし、涼しさを演出。

春(上)と夏(下)の落葉樹による微気候効果



上／葉を落とした春の落葉樹による「日向ぼっこ効果」。地表面温度は気温より5度ほど高く、春のうららかさを体感できます。下／葉を茂らせた夏の落葉樹による「緑陰効果」。樹木の日射遮蔽効果が明瞭で、日向との表面温度の差は約15度。

陽射しを遮り、風が自然に流れる住まいで
涼しくエコロジーに暮らす、夏の「微気候デザイン」。

陽射しを遮り、風を採り入れ、熱気を排出するのが夏を涼しく暮らす知恵。夏の陽射しは「ウォールルーバー」や深い庇でカットし、壁面や窓面の温度上昇を抑えます。外気温の影響を受けにくくする工夫として、高遮熱の「陶器瓦」や、開口部を奥まった位置に設ける「凹型プラン」も効果的。エアコンの使用を抑え、省エネルギーにも貢献します。また、室内の風通しを良くするため、地域ごとの風の特徴を把握した通風設計や、暖まると上昇する空気の性質を利用した「温度差換気」をご提案。地窓を風の入口とし、「内部換気ガラリ」を経て出口にトップライトや高窓、換気塔などを設けることで、高低差により自然に風が流れ、無風時も室内にこもる熱気を効果的に排出できます。

